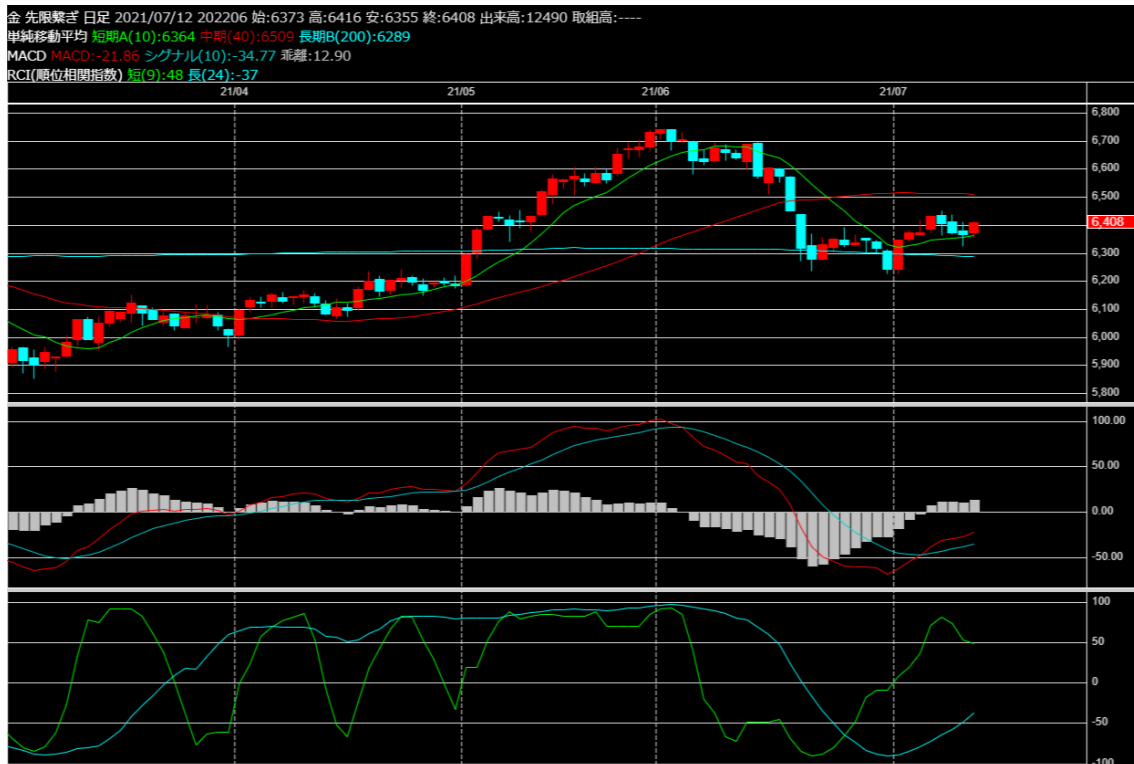


＜金標準、40 日移動平均線が示す 6509 円への上昇＞



(出所：オアシス)

FOMC 以降、リフレトレードの巻き戻しの動きを強めて、米国 10 年物国債金利は低下する動きを続け、先週には 2 月以来の 1.3%を下回る 1.295%まで低下している。特に金融商品で逃避先の金は、金利低下にドル安を背景とした買い戻しの動きを見せ、6300 円で下げ渋ると 6400 円を回復している。

特に週末には、中国人民銀行が預金準備率を 0.5%の大幅な引き下げを発表し、15 日以降には約 17 兆円相当の長期流動性が市場に供給される。またパウエル FRB 議長の議会証言を 15 日に控え、半期に一度の金融政策報告で接種プログラム拡大が寄与する形で米国経済は力強い回復を見せているとしつつ、金融政策による「強力な支援」を今後も続けると表明している。そのため商品全体が買い戻しの動きを強めており、金標準先物も先週の高値 6451 円を超えて 6500 円を試す値動きが予想される。

(2021 年 7 月 11 日記載)

＜テクニカル＞

金標準先物の日足を MACD と RCI (短期・長期) で見た場合は、MACD とシグナルが右肩上がりの上昇を続けながら、MACD とシグナルの乖離を示すヒストグラムも強気の拡大を示している。また RCI では短期が下げ渋る中で、大勢を示す長期が上昇を続けており、短期と長期のクロスが発生するまでは高値追いが予想され、40 日移動平均線が示す 6509 円に向けた戻りが予想される。